

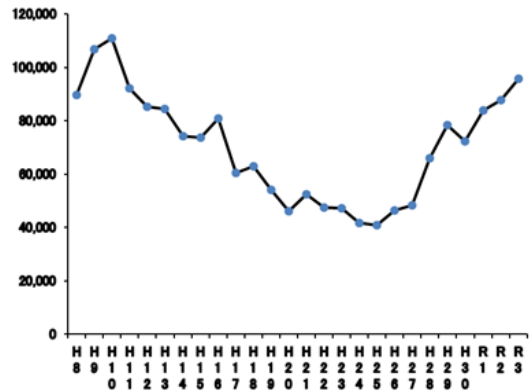
市 町 村：山形市

タイトル：大規模園芸団地化と担い手育成による東北一のセルリー産地の再興

氏名(集団名)：山形市農協野菜園芸専門委員会セルリー一部 部長 佐々木弘一

1 受賞者の概要

「山形セルリー」は、昭和43年に會田和夫氏が栽培を始め、昭和60年に現在の山形市農協野菜園芸専門委員会セルリー一部が発足した。平成9年には部員数25名で販売額1億円を突破し、東北一のセルリー産地となった。しかし、その後産地規模が徐々に減少し、平成25年には販売額が4,000万円とピーク時の約3分の1まで減少した。セルリー部とJA山形市は、産地再興を図るため、平成26年に「山形セルリー」農業みらい基地創生プロジェクトを立ち上げ、①ハウス等基盤整備、②新規就農者の確保・育成、③ブランド化による販売戦略に取り組み、令和3年には販売額9,586万円まで回復し、産地の再興を果たした。



山形セルリー販売金額の推移
(千円：H8～R3)

2 特色ある活動

(1) 「山形セルリー」農業みらい基地創生プロジェクトの展開

生産者（セルリー部）、JA山形市、JA全農山形、山形市、県の関係機関が一体となった推進体制を構築して強力な取組が行われた。

(2) 農協レンタル方式で栽培施設等を貸出し

平成27年からの5年間で、敷地面積4.7haに栽培ハウス75棟、共同育苗ハウス、出荷調整施設や農業機械等を整備し、農協レンタル方式で新規就農者へ貸し出す体制とした。



大規模セルリー団地近景

(3) ベテラン農家が新規就農希望者を受け入れる研修育成制度の実施

ベテラン農家が新規就農希望者を研修生として受け入れる育成制度を作り、技術の早期習得や向上に努めた。平成27年からの6年間で9名（うち非農家7名）が研修を受け、うち7名が就農してセルリー栽培を行っている。

(4) 「山形セルリー」のブランド化に向けた販売戦略の展開

平成30年4月、セルリー産地で初めてG I（地理的表示保護制度）登録された。平成30年9月、青果物で県内最初のJ G A P団体認証を取得した。また、県内外で販路拡大イベントやセルリー料理コンテストを開催し、レシピ集も発行した。これらの取組により、ブランド力を強化した。

(5) 土壌病害（黄化症状）の克服

平成29年頃から黄化症状が発生した。関係機関と対策チームを結成して調査した結果、主要因は土壌病害であり、土壌消毒で発生を抑えることに成功した。

3 今後の発展方向

黄化症状のより安全な防除法への移行、生産者の高齢化や後継者不足に対するICTを活用した管理作業の軽減等の課題に、関係機関と共に取り組んでいく。